看護学生時代をふりかえって

看護学科第 36 期卒業生　伊藤　千夏

准看護師の資格を取り、仕事を覚えながら結婚、出産、子育てと慌ただしい毎日を過ごしていました。看護師の資格を取れたらなぁと思うときもありましたが、子育てをしている自分には無理だろうと諦めていました。子供達が大きくなると仕事はこなせていても、本当にこのままでいいのかと思うことも多くなり、働きながら資格を取れないかと考える事も増えていきました。家族がいて資格を取るとなると、家庭に勉学の両立になるため当校が私には合っていると思い受験をさせて頂きました。通信でもと考えたこともありましたが、自分に甘い私は、学校に通い勉強をするとういう時間の確保が出来る環境を選択しました。

10 年ぶりの学校は、とても新鮮で胸が高鳴った事を今でも覚えています。学校生活の３年間は学業を優先させてもらい、子供達には寂しい思いをさせてしまっているのではないかと思う時もありました。ですが、母親だからと何かを諦める姿を見せるのではなく、挑戦する姿を見せるべきではないかと考え学ばせてもらいました。流れ作業のようにこなしていた看護を、根拠を持ち一人一人の患者様と向き合い、個別性をもって行う看護へと意識変化が出来たのは、当校で学び得たものだと思います。

看護師の資格を取得し、働いている今、更なるスキルアップについても考えることが出来ています。准看護師として働いていた事は、子育てなど家族と過ごす為に必要な時間だったと思います。ですが、准看護師でも良いだろうと、自分に言い聞かせていた時間でもありました。看護専門学校という働きながら学べる環境は、子育てをしている私にとって学びやすい環境だったと思います。そのお陰で、看護しての支柱を作り、更なる成長に向けた学びへの情熱を持つことに繋げることが出来たと考えます。

これからも、看護師人生を謳歌していきたいと思います。